

「男女共同参画のキホン」 の両立編一

2025

公益財団法人 あいち男女共同参画財団

男女共同参画のキホン —仕事と○○の両立編—

2000年代中頃に「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）」という言葉が登場してから時代は進み、今や皆いくつもの「何か」と両立して働いていかなければならない社会になりました。

伸びる寿命、上がる結婚年齢

高齢化や人生の多様化によって、平均寿命や結婚・出産時の年齢は上がっています。その後のライフイベントにも影響が出ています。

	1980年	2024年
男性	73.35歳	81.09歳
女性	78.76歳	87.13歳

	1980年	2024年
男性	27.8歳	31.1歳
女性	25.2歳	29.8歳

	1980年	2024年
男性	29.2歳	33.0歳
女性	26.4歳	31.0歳

出典：厚生労働省「人口動態統計月報年計（粗数）」の概況」（R6）
厚生労働省「簡易生命表の概況」（R6）
※2023年の数据

「両立」はもはや珍しくない

働きながら幼い子どもを育てたり、介護をしている人の割合は年々増加し、育児は全体の85.2%、介護は58.0%を占めています。

未就学児の育児をしている人、家族の介護をしている人の推移（男女、就業状況別）(万人)

年	育児	介護
2012年	283	138
2022年	311	183

出典：内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』（R6）

家族のお世話役はまだまだ女性

育児や介護をしている人を性別・年代別にみると、あらゆる年代で女性の方が多くなっています。

未就学児の育児をしている人、家族の介護をしている人の数（男女、年齢階級別 2022年 一部抜粋）(万人)

年齢	育児	介護
15～24歳	6	5
25～29歳	98	143
30～34歳	135	143
35～39歳	172	123
40～44歳	138	143
45～49歳	31	40
50歳以上	60	40
55～59歳	71	36
60～64歳	64	40
65～69歳	50	36
70～74歳	31	40
75歳以上	27	36

出典：内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』（R6）

育児と介護が同時にやってくる

未就学児の育児と家族の介護を同時にする「ダブルケア」をしている人は20.1万人います。その内、16万人は仕事をもっていて、一人でトリプルの役割を担っています。

出典：内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』（R6）

健康との両立も必要に

健康課題を抱える人の数は男女で差があり、あらゆる年代で女性の方が多いです。

特に50代では差が大きく開いています。

健康上の問題で仕事、家事等への影響がある者の数及び割合（男女、年齢階級別 2022年 一部抜粋）(万人)

年齢	男性	女性
30～39歳	18	27
40～49歳	29	38
50～59歳	36	55
60～69歳	47	58

出典：内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』（R6）

「维尔あいち情報ライブラリー啓発パネル 「男女共同参画のキホンー仕事と　　の両立編一」

2025

自分のケアができない現状

正規雇用の男女の半数以上は、体の具合が悪いところがあっても休んだり、病院に行くなどの対処ができていません。

そのうち、小学生以下の子どもと同居している女性は、**仕事や家事・育児・介護で忙しくて病院等に行く時間がない**ことを最も多く理由にあげています。



出勤

出典：内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書」(R6)
監修：吉澤由里子、あいち県女性基幹団

両立て何も諦めなくていい社会へ

家庭も仕事も健康も犠牲にするとのない社会を実現するために、「柔軟な働き方」や「支援制度を使いやすい環境づくり」など、皆で考えることが大切です。



参考：内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書」(R6)
監修：吉澤由里子、あいち県女性基幹団